

目標1 2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現

身体的共創を生み出すサイバネティック・アバター技術と社会基盤の開発

Project manager

南澤 孝太

慶應義塾大学  
大学院メディアデザイン研究科  
教授



代表機関

慶應義塾大学

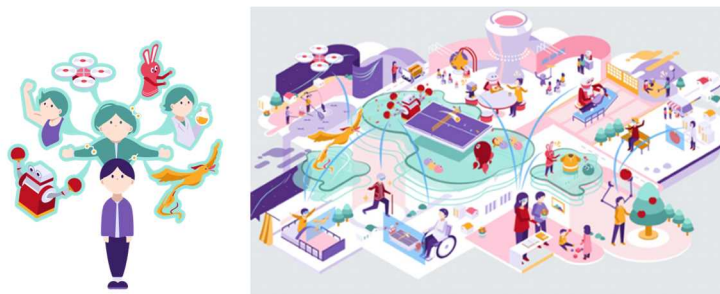
研究開発機関

avatarin 株式会社、大阪大学、株式会社オリイ研究所、慶應義塾大学、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所、東海大学、東京大学、名古屋大学、名古屋工業大学、パナソニックホールディングス株式会社、明治大学、理化学研究所

プロジェクト概要

【誰もが自由に活躍できる未来社会を目指し「もう1つの身体」としてのサイバネティック・アバターをデザインする】

人々が自身の能力を最大限に発揮し、多様な人々の多彩な技能や経験を共有できるサイバネティック・アバター技術を開発します。技能や経験を相互に活用する場合の制度的・倫理的課題を考慮して、人と社会に調和した、身体的な技能や経験を流通する社会基盤を構築します。2050年には、この流通が人と人との新たな身体的共創を生み出し、サイバネティック・アバターを通じて誰もが自在な活動や挑戦を行える社会を実現します。



CAを通じた自己の拡張 2050年の身体的共創CAの利用イメージ

2030年までのマイルストーン

【緊急時でも多様な人材により、素早く問題解決できる大規模遠隔互助社会の実現】

災害や感染症等の緊急時に、多分野の専門家が多数のCAを並列・協働することによって、直接の支援が難しい現場を効率よく互助・協働支援できる。

【生まれながらの身体に制約されず社会参画ができる遠隔互助社会の実現】

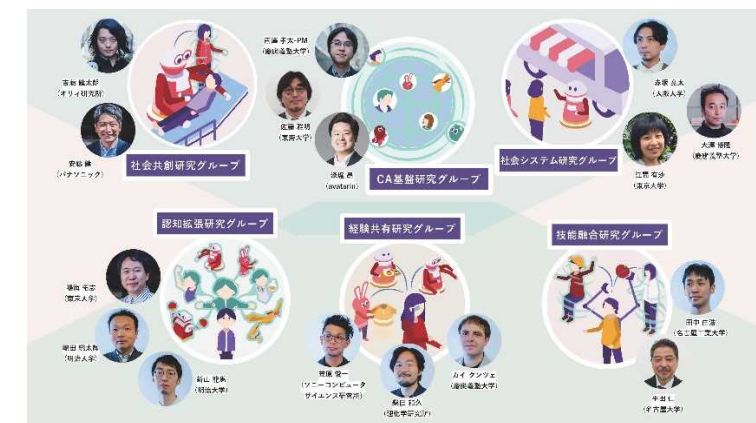
身体・脳の制約のある人が、自らの身体的・認知・知覚能力を自立的に拡張でき、互いが合意する他者との技能合体CAとも連携協調することによって、さらにこれらの能力を拡張でき、新しい文化・芸術・スポーツ・教育活動に参画できる。

2025年までのマイルストーン

【技能や経験を互いに提供し合って能力拡張する技能合体流通社会の実現】

合意した複数人が、ネットワークを通じて身体・認知・知覚能力を融合できるCAを通じて、異なる技能や経験を連携協調することによって、身体の障害の有無に関わらず、互いの個性を尊重し違いを活かしながら、多様な技能や経験が求められるフィールドにおいて利用者のニーズに応じた適切な能力拡張が行えるようになり、新しい仕事・教育・文化・スポーツ等の特定の活動に参加できるようになる。

プロジェクト内の研究開発テーマ構成



- ①認知拡張研究グループ: 身体性と社会性の認知的拡張技術
- ②経験共有研究グループ: 経験の並列化と融合的認知行動技術
- ③技能融合研究グループ: 身体技能の多様性融合技術
- ④CA基盤研究グループ: 身体的共創を生み出すCA基盤の構築と運用
- ⑤社会共創研究グループ: 多様性と包摂性を拡大するCA社会の共創的デザイン
- ⑥社会システム研究グループ: CA時代と倫理と制度の設計